

新潟国際情報大学「AI 利活用のための教育プログラム」自己点検・評価  
(リテラシーレベル)

【学内からの視点】	
	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・ 修得状況	<p>本プログラム（リテラシーレベル）の対象科目は「統計学」「AI・データサイエンス入門」の2科目である。</p> <p>本学が導入するポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）活用により、学務課と教務委員会において両科目の履修・単位修得状況分析を実施し、受講者毎の出席および課題回答状況を把握できる。</p> <p>両科目は全学共通基礎科目に位置付けられ、国際学部は選択科目、経営情報学部は必修科目である。「AI・データサイエンス入門」履修者数196名、単位修得者数193名であった。「統計学」履修者数237名（1年次生のみ）、単位修得者数218名であった。</p> <p>「AI・データサイエンス入門」と「統計学」を両科目を履修した学生は、196名で、単位修得者数は181名（国際学部3名、経営情報学部173名）であった。初年度の履修者数内リテラシーレベルプログラム修了率は、92.3%である。</p> <p>本プログラム（リテラシーレベル）の履修者数は国際学部3名、経営情報学部193名であり、修了者数は国際学部3名、経営情報学部178名であった。各学部の収容定員数におけるリテラシーレベル履修率は、国際学部1%、経営情報学部32%である。</p>
学修成果	<p>本プログラム対象2科目の授業評価アンケートの定型項目尺度割合および自由記述欄の内容を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を学務課および教務委員会が連携し、本プログラムの評価・改善に活用している。</p> <p>初年次生における経営情報学部の履修率は98%を達成したが、国際学部の履修率は3%未満であり、本プログラムが十分に周知されていない可能性がある。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本プログラム対象2科目の授業評価アンケートの定型項目尺度割合は以下の通りであった。「AI・データサイエンス入門」アンケート結果は、「とてもよく理解できた」38%、「よく理解できた」49%、「どちらともいえない」11%で、残り2%が「理解できなかった」であった。</p> <p>「統計学」アンケート結果は、「とてもよく理解できた」26%、「よく理解できた」40%、「どちらともいえない」24%で、残り10%が「理解できなかった」であった。「統計学」で</p>

	は授業後半の推測統計（推定、検定）になると理解度が低下する傾向がある。教科書の例題ではなく、学生の馴染みや関心のある例題を提示する必要がある。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学授業科目を対象とした授業評価アンケートには後輩等他の学生への推奨を問う質問がなく、推奨度等は不明である。 全学授業科目を対象とした授業評価アンケートには後輩等他の学生への推奨を問う質問がなく、推奨度等は不明である。 今後、国際学部履修生授業アンケート質問項目にこの内容を組み入れることを検討する。経営情報学部は必修科目なので、他の学生への推奨度を問う質問は該当しないと考えられる。国際学部履修生に調査する仕組みを検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの施行は初年度であり、経営情報学部では対象2科目は必修科目であるので、履修者数、履修率向上に向けた計画は策定していない。しかしながら、国際学部の履修率を向上する必要があり、履修ガイダンス等を通じて説明を強化する必要がある。

【学外からの視点】	
	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムを修了して卒業した学生はまだいない。東京にてIT企業を対象としたセミナーに発表者として本授業を紹介し、本プログラムを修了した学生を雇用したい希望が寄せられている。 3年後に教育プログラム修了者の進路、企業の評価を収集する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	対象科目「AI・データサイエンス入門」では2回の授業でIT企業から講師を招き、学生にAI等開発現場での講義を実施し、本プログラムを向上させる内容として「ChatGPT等生成AIとどうつきあうか」というテーマを選定してもらい、学生と質疑応答する機会を設けている。 今後ともIT企業からのプログラムへのインプットを意見収集し、講義するように計画する。

	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	対象科目「AI・データサイエンス入門」では本学設置のAI計算機NVIDIA DGX A-100（GPUサーバ）を使用し、大規模言語モデルのファインチューニングを学生が大学祭「キャッチコピー作成指示文」と「キャッチコピー」を作成する経験をさせている。